

第1学年3組 算数科 ひきざん

学習活動・予想される児童の反応

1 前時までの学習を想起し、本時学習のめあてをつかむ。

なしが15個あります。8個食べました。のこりはなんこでしょう。

- ・10と5のどちらから8をひくかな。
- ・ひくたす法が使えるそう。
- ・ひくひく法が使えるそう。



○ひくたす法（減加法）

10から8をひいて2。

2と5で7。

$$\text{しき } 15 - 8 = 7$$

こたえ7こ



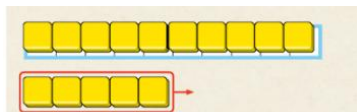
○ひくひく法（減減法）

15から5をひいて10。

10から3をひいて7。

$$\text{しき } 15 - 8 = 7$$

こたえ7こ



どちらも、10のまとまりをつくって、けいさんしている。

めあて

じぶんがえらんだほうほうでけいさんしよう。

2 ひくたす法かひくひく法を選び、計算する。

① $11 - 7 = 4$

② $14 - 7 = 7$

③ $17 - 9 = 8$

④ $16 - 7 = 9$

3 交流する



- ・ひくたす法も、ひくひく法も使えたぞ。
- ・私はひくたす法（ひくひく法）の方がやりやすいな。
- ・どちらで計算しても、答えは同じだな。

どちらのほうほうでも、けいさんできる。（こたえはおなじ。）

4 学習を振り返る。

- ・きょうがくしゅうしたことがよくわかったか。
- ・ひくたすほうや、ひくひくほうを、つかうことができたか。
- ・ともだちやみんなに、せつめいすることができたか。

本時見られた深く学ぶ子どもの姿

○ 「ひくたす法」と「ひくひく法」のどちらのやり方も確認させることで、どちらの方法が計算しやすいか考えて取り組むことができた。

○ ロイロノートの共有機能を使うことで、自分や友だちが「ひくたす法」か「ひくひく法」で計算したかが、視覚的に分かるようにした。

また、自分と違う方法で計算している友だちのカードを見ることができ、自分も別の方法で計算しようとする姿が見られた。

○ 友だちのカードをヒントカードとして使い、自分で問題を解決しようとする姿が見られた。



資料1 ひくたす法・ひくひく法で計算したカードを色分けしたもの】

○「ひくたす法」と「ひくひく法」のどちらの方法も確認させることで、自分が計算しやすい方法を選ぶことができ、意欲的に問題に取り組むことができた。

●問題によって「ひくたす法」と「ひくひく法」を使い分けると計算しやすいということに気付かせることができなかった。引かれる数と引く数の関係に注目させる必要があった。